

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城北中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	基礎的な知識・技能が身に着いていない生徒が多数いるため、個別最適な学びを実践することや、ワーク等の学習教材の効果的な活用を行うことにより、基礎基本の定着を図る。 点数を取らせるためには、直前の振り返りの時間が必要となり、かつ目標設定をさせることが大切と考える。一方で、詰め込み方の学習だけでは予測困難な時代を生き抜く力は身に付かないので、バランスに留意することが必要とも考える。スタディサプリの活用の仕方が分かっていない生徒が多いため、説明の時間を取る。教科間、学年間の活用の差を埋
思考・判断・表現	生徒の主体的な活動をうながす授業づくりについて研究を行い、組織的に実践していく。 訓練と反復があれば、資料や他の人の意見から考えを表現することが出来る生徒が多い。多くの教科で発表し合う時間や考えを議論する時間も知識習得の時間とバランスよく配置することが必要と考える。
主体的に学習に取り組む態度	小テストやワーク等の学習教材の効果的な活動により、継続的に学習に取り組む環境を整えられるよう、組織的な学習指導を行う。 教師が考える楽しい授業と生徒が考える楽しい授業が乖離していないか常にとらえることが重要と感じている。「楽しい」の在り方がただおもしろいや楽であるのか、教科特性を生かした学びの面白さになっているのか(そうだったのか！や「なるほど感」)を指導と評価の一体化の中で常に授業者がアンテナを高くしていくことが重要であると考えられる。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の自校の結果より、2教科以上で2pt以上、市の平均に近づける。	⇒ ドリルパークやスタディサプリ等を活用し、基本的な知識・技能の想起・習熟を行う。その際、生徒の学習履歴を活用し、学期に1度以上自学の時間にて重点的に補修を取り入れることで個別最適化を図る。
思考・判断・表現	『『よい授業』のアンケート』の「4 生徒の活動」の値を、Preと比較しPostにおいて、2pt以上向上させた値にする。	⇒ 考える力、表現する力の育成を目指し、全教科において「探究型(さいたま市『アクティブ・ラーニング』型)授業」を実施する。
主体的に学習に取り組む態度	「学校評価の生徒アンケート」で③あなたは真剣に授業に取り組んでいますか。⑥家庭学習をよくやっていますか。⑩時間を意識して行動できていますか。の3項目において、生徒の半数以上から肯定的な回答が得られるようにする。	⇒ 学びの足あとが見えるように、ムーブノートやオクリンク等の思考ツールを活用して考えを整理する時間を設ける。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の自校の結果より、2教科以上で2pt以上、市の平均に近づけることは難しく、目標達成には至らなかった。	B
思考・判断・表現	『『よい授業』のアンケート』の「4 生徒の活動」の値を、Preと比較しPostにおいて、2pt以上向上させた値に近づけることは難しく、目標達成には至らなかった。	B
主体的に学習に取り組む態度	「学校評価の生徒アンケート」で③あなたは真剣に授業に取り組んでいますか。⑥家庭学習をよくやっていますか。⑩時間を意識して行動できていますか。の3項目において、生徒の半数以上から肯定的な回答が、市の平均を下回っており、自ら学ぼうとする態度に学校として課題が見られた。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	反復することを意識し、繰り返し行うことで知識・技能の習得が向上したと思われる。「聞くこと」は最も全国平均に近かった分野だった。1年生から帯活動でリスニングを行っていたのでその成果が出たと考えられる。「我が国の言語文化に関する事項」の基礎的な知識を問う問題の正答率が低かった。基礎的な知識の定着に課題があると考えられる。
思考・判断・表現	自分の言葉で表現することを苦手としている生徒が多い。特に説明の問題や証明の問題は無回答率が高い。「書くこと」、「話すこと」に課題が残った。「話すこと」は市で重視しているため、ALTとのTTの授業を増やして話す時間を増やしていきたい。表現の効果について考える問題を苦手としている。これは、実際にこの効果を日常の中で活用する場面が少ないことが要因だと考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	無回答率が前年よりも低下している。主体的に学習に取り組む態度は良くなっている。「勉強が好きだ」という質問に対して肯定的な意見が良い傾向にあった。活動の時間を増やすなど、興味をもって授業に参加できるように工夫する。「大切なこと、役に立つことは分かっているが、好きとは言えない」の意見が多いことに課題が残る。この気持ちを好きに変えていくことが必要である。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	社会を除く国・数・理が昨年度の1学年のポイントを下回った。成績分布図を氏の割合と比較して分析すると、正答率が半分以下の生徒の割合が高く、特に数学においてその傾向が顕著だった。
中2	国語を除く社・数・理が昨年度の2学年のポイントを下回った。ただし、昨年(1年)と比較すると、全教科においてポイントが上昇した。
中3	質問5「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。」の質問に対して肯定的な意見が9.8割だった。それに対し、質問6「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」の質問に対しては、肯定的な意見が7.5割にとどまった。肯定的な意見が多いことは確かだが、来年度は難しい問題に対しても諦めずに取り組む力を育成する必要があると考えられる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし